

中 学 校

平成28年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
1	一人一人が自分の考えをもち、伝え合うための工夫	
2	互いが認め合うための工夫	
III	研究仮説	3
1	研究仮説	
2	研究構想図	
IV	研究方法	5
1	基礎研究 文献・資料による研究	
2	実践研究	
3	検証の手だて	
V	研究内容	7
1	調査研究の結果	
2	実践的研究（1） 教材開発	
3	実践的研究（2） 検証授業	
VI	分析と仮説の検証	20
VII	研究の成果	23
VIII	今後の課題	24

研究主題

主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする力を 育てる学級活動の工夫

～自分の考えを伝え合い、互いに認め合う活動を通して～

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領解説特別活動編には、特別活動の目標として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成が明記されている。このことにより、集団や社会の一員として、協力して学校生活の充実と発展に主体的に関わる教育活動の意義が明確になった。

また、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省 平成 28 年 8 月 26 日）（以下、「審議のまとめ」と表記）には、学習・指導の改善充実や教育環境の充実等の内容について、「特別活動は多様な他者との集団活動を基本とし、これまでも『話し合い』を全ての活動の中で重視してきた。集団活動を行う上で合意形成を図ったり、意思決定をしたりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる。」と述べられている。改めて、多様性を認め、よりよい生活や人間関係を築いていくために、話し合い活動を一層充実させていく必要性が示されている。

しかし、現代に生きる子供たちは「自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られる。（中学校学習指導要領解説特別活動編）」との指摘がある。本研究を通して、9月に研究員の所属校の生徒を対象に行った事前のアンケート調査の結果においても、「学級活動の時間で、自分の意見や考えをクラス全員にいうことができる」、「相手と意見や考えが違っていても、相手の意見や考えを認めることができる」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合はそれぞれ 55%、89%と、自分の考えを伝えることや意見の多様性を認めることで、社会形成に参画しようとする態度の育成に向けた指導を充実させる必要があることが分かった。

このような生徒の実態の背景には、特別活動を通して自分の意見や考えを伝えたり、互いに認め合ったりする場面の設定が少ないため、自分に自信をもって、自他を認め合いながら人間関係を築くことに不安を感じていることなどが原因ではないかと考えた。

生徒は学校生活の中で、様々な集団に所属しているが、学級の一員として生活する時間が最も長いことから、学級活動は特別活動の基盤となる教育活動であるといえる。そこで、本研究では「学級活動」に焦点を当てることとした。学級活動の中で、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成するためには、生徒一人一人が自分の意見や考えを伝えられるようにすることに加えて、生徒同士が互いの意見の違いや多様性を認めつつ、集団としての意見をまとめていく話し合い活動の場면을意図的に設定することが必要である。また、話し合いや実践後の振り返りの指導に重点を置くことで、互いのよさを認め合う力を高めることができるようにすることが大切である。

以上のことから、研究主題を「主体的によりよい生活や人間関係を築く力を育てる学級活動の工夫～自分の考えを伝え合い、互いに認め合う活動を通して～」とした。

Ⅱ 研究の視点

「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）では、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」と「学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」という質問に、肯定的な回答をした都内公立中学校に在籍する生徒の割合は、それぞれ 50.2%、58.4%となっており、改善を図る必要があることが示されている。

そこで、「一人一人が自分の考えをもち、伝え合うための工夫」と「互いに認め合うための工夫」の二つの視点から指導することが大切であると考えた。学級活動で、個人や小集団の話し合いから導き出された目標に対して、話し合いの中で課題や改善策を考える活動を通して、互いを認め合う力や、よりよい生活や人間関係を主体的に築こうとする力を育てるための指導について研究を進めることとした。

1 一人一人が自分の考えをもち、伝え合うための工夫

(1) 生徒が自分の考えをもち、主体的に話し合い活動を行うための工夫

生徒一人一人が自分の考えをもち、話し合い活動に参加するためには、事前にアンケート調査等を行い、議題や活動テーマに対する問題意識をもたせて話し合いの必然性を自覚させることや、落ち着いて話し合いができるよう、事前に自分の意見や考えを「目標達成カード」（※名称は各学級で変更するものとする）などに記入させた上で話し合い活動に臨ませることが有効であると考えた。

(2) 話し合い活動を円滑に進めるための工夫

小集団での話し合いの場を設定して、自分の課題や目標、手だてなどを文章にしたり、班員に言葉で伝えたりする活動を通して、自分の考えに自信をもたせることが有効であると考えた。また、他の生徒の意見を聞くことや、記録することが自分の考えを深めるきっかけとなり、課題に対する意識もより高くなると考えた。班のメンバーを入れ替えて実施する話し合い活動や、学級の課題に応じたグルーピングなど、意見交換がしやすい環境を整えることで、話し合いに積極性が生まれ、自らすすんで発言したり、互いの意見のよさを生かしたりするなど、自分自身の考えが深まり、その結果、相手に伝える際にも自信につながると考えた。

活動の場では、生徒が話し合いの議題を提示し、教師の適切な指導の下に、生徒の主体的な活動が効果的に展開されるようにする必要があると考える。そのためには、朝の会や帰りの会など、日常の学級での活動から生徒が主体となって行う活動を取り入れることや、学級を中心となって活動を進める生徒に対して、事前に指導を行っておくことなども、有効な工夫であると考えた。

2 互いに認め合うための工夫

(1) 話し合い活動を通じた認め合いの工夫

話し合い活動の場面では、互いの意見を認め合う雰囲気づくりを行っていく。具体的には、小集団での話し合い活動の中で、互いの意見を聞き合い共感できる部分や自分の考えを深めるきっかけとなった意見に対して、付箋にメッセージを書いて渡したり、「振り返りカード」の

中に他の生徒からの肯定的評価を書いたりするなどして、学級内に支持的な風土を醸成していくことが大切である。

学級の課題解決に向けた話し合いの場面では、学級の課題を細分化して解決策を考えさせることで、生徒の中から多様な意見を引き出すことができると考える。これにより、自分の考えを自由に表現したり、互いの意見の違いを超えてよさを生かしながら、最終的に「自分もよくてみんなもよい」という集団としての合意を形成することができるようになると思う。また、学級全体の目標や課題と細分化された課題の解決策等を模造紙に記入して掲示することで、自分の意見が学級全体の意見として認められたことが視覚的に理解できるようにし、自尊感情¹を高めることが大切であると考えた。

さらに、ここでは教師の役割も重要となる。生徒の主体的な話し合い活動や事前の学習カードに記入された意見の中から、意図的・計画的に生徒の意見をつなげたり、価値付けて自信をもたせたりするための指導と助言を行う必要がある。

(2) 認め合いを重視した振り返りの工夫

話し合い活動を通して、互いのよさや集団の高まりに気付かせるために、毎時間の授業や実践活動の終わりなどの節目に相互評価を含む振り返りを充実させる必要がある。

人前で意見を言うことが苦手な生徒のために、小集団での話し合いの活動の後に、短時間の振り返りの時間を設定することで、自分の考えを述べることができたという経験を積み重ねることができる。また、小集団内での相互評価について伝え合ったり、受け取った「いいね」カードのコメントを読み返したりすることで、より大きな集団で意見や考えを発表するための自信につなげることもできると考える。

話し合いの振り返りでは、自分の意見をまとめるのに参考になった他の生徒の意見や合意形成のために有効だった発言などを書かせたり発表させたりするなど、気付きや互いの評価を言語化することで、互いの違いを理解し合い、認め合う意識が高まると考える。また、生徒が書いた感想や実践の場面で活躍していた友達などを各種便りや朝の会、帰りの会でリーダーや教師が発表することによって、よりよい生活や人間関係を築こうとする力の育成につながると考える。

Ⅲ 研究仮説

1 研究仮説

学級活動を通して、一人一人が自分の考えをもって伝え合うとともに、互いに認め合うことができるようにすれば、よりよい生活や人間関係を築こうとする力が育つであろう。

¹本研究における自尊感情とは、平成21年度東京都教職員研修センター研究紀要「自尊感情や自己肯定感に関する研究(第2年次)」における「自分でできることできないことなどすべての要素を包括した意味での『自分』を他者とのかかわり合いを通して、かけがえのない存在、価値ある存在としてとらえる気持ち」と定義する。

2 研究構想図

特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

学級活動の目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

生徒の実態

- 自己実現に関する生徒の実態
 - ・自分の意見や考えを話して伝えるより、書いて伝える方が表現しやすい。
 - ・自分から課題を発見し、解決しようとするのが苦手である。
- 人間関係形成に関する生徒の実態
 - ・自他の意見を聞き合うのが苦手である。
 - ・他の生徒を認めようとする気持ちが弱い。
- 社会参画に関する生徒の実態
 - ・主体的に行動する生徒が少ない。
 - ・自尊感情が低く、自分の意見や考えを述べるのが苦手である。

身に付けさせたい力²

<自己実現>

自らの課題を発見し、改善する力

<人間関係形成>

積極的な意見交換から、互いを認め合い、よりよい生活や人間関係を築こうとする力

<社会参画>

集団の諸問題に対して、主体的に関わり解決しようとする力

今年度は人間関係形成に焦点化

研究主題

主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする力を育てる学級活動の工夫
～自分の考えを伝え合い、互いに認め合う活動を通して～

研究仮説

学級活動を通して、一人一人が自分の考えをもって伝え合うとともに、互いに認め合うことができるようにすれば、よりよい生活や人間関係を築こうとする力が育つであろう。

²本研究における身に付けさせたい力は、「審議のまとめ」に示された、特別活動において育成を目指す資質・能力の視点を参考にしている。その上で、今年度の研究主題に関連付けて、積極的な意見交換や互いを認め合う活動を通じた学級活動の工夫に焦点を絞って研究を進めることとした。

IV 研究方法

1 基礎研究

(1) 文献・資料による研究

- ・「中学校学習指導要領特別活動」
- ・「中学校学習指導要領解説特別活動編」
- ・「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省 平成28年8月26日）
- ・「教育課程企画特別活動部会 論点整理」（平成27年8月26日）
- ・「平成28年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）
- ・「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成26年6月）
- ・平成24年度東京都教職員研修センター研究紀要「自尊感情や自己肯定感に関する研究（第5年次）」
- ・平成21年度東京都教職員研修センター研究紀要「自尊感情や自己肯定感に関する研究（第2年次）」
- ・平成25年度研究紀要 第46号（東京都中学校特別活動研究会）
- ・平成23年度研究紀要 第44号（東京都中学校特別活動研究会）
- ・平成27年度 教育研究員研究報告書 中学校特別活動
- ・平成26年度 教育研究員研究報告書 中学校特別活動
- ・「評価基準の作成、評価方法等の改善のための参考資料（中学校特別活動編）」（国立教育政策研究所 平成23年11月）

2 実践研究

(1) 教材開発

話し合い活動や振り返り活動の充実を図る指導方法を検討し、指導計画と指導案を作成した。

(2) 授業以外での日々の実践

「振り返りカード」を作成し、日々の取組を定期的に振り返る機会を設定した。自分の行動について振り返るとともに、自分の考えを文字にして残すことによって自分の考えをもちやすくなるよう工夫した。

(3) 検証授業

合唱コンクールを題材として、(1)に基づく検証授業を実施した。

(4) 成果検証の手だて

本研究では、平成26年度及び平成24年度東京都教育研究員が開発した「学級活動に関するアンケート」の質問項目を引用し、以下の15項目からなるアンケート用紙を作成し、生徒の実態把握と成果の検証を行った。

アンケートの項目は、「審議のまとめ」に報告された、特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点「自己実現」「人間関係形成」「社会参画」と関連付けて分析することとした。

なお、「自己実現」を2・3・6・12・14の質問項目、「人間関係形成」を5・7・8・9・10の質問項目、「社会参画」を1・4・11・13・15の質問項目と関連付けている。

表1 「学級活動に関するアンケート」

これは学級活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に○をつけてください。

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1	私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。	4	- 3	- 2	- 1
2	学級活動の時間で、自分の意見や考え方を紙に書くことができる。	4	- 3	- 2	- 1
3	私は話し合い活動の中で新たな課題を見付けようとしている。	4	- 3	- 2	- 1
4	学級活動で発言をするとき、恥ずかしいと思わない。	4	- 3	- 2	- 1
5	相手の意見や考えが違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4	- 3	- 2	- 1
6	学級活動の時間で、自分の意見や考え方を班員に言うことができる。	4	- 3	- 2	- 1
7	友達は私のよいところを認めてくれている。	4	- 3	- 2	- 1
8	私は友達のよいところを認めている。	4	- 3	- 2	- 1
	他の生徒を認めることができる・できない理由を書いてください。(自由記述)				
9	私は友達の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んでいる。	4	- 3	- 2	- 1
10	学級活動はよりよい人間関係を築く一つのきっかけになっている。	4	- 3	- 2	- 1
11	私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。	4	- 3	- 2	- 1
12	私は学級のよいところと課題を理解している。	4	- 3	- 2	- 1
13	私は人のために力を尽くしたい。	4	- 3	- 2	- 1
14	学級活動の時間で、自分の意見や考えをクラス全員に言うことができる。	4	- 3	- 2	- 1
	意見を言うことができる・できない理由を書いてください。(自由記述)				
15	自分の学級は居心地のよいところである。	4	- 3	- 2	- 1

()年()組()番 名前()

V 研究内容

1 実践的研究(1) 教材開発

自分の考えをもって伝え合うとともに、互いに認め合いながら話し合い活動や振り返り活動を継続して行うことにより、主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする力につながると考えた。

そこで、本研究では、話し合い活動と振り返り活動を充実するために、目標達成に向けた課題解決策を見える化した「目標達成マップ」と、目標に対しての自身や学級の行動を定期的に振り返るための「振り返りカード」を作成した。

(1) ねらい

ア 目標達成に向けた課題解決策決定時に、自分の意見が採用される経験を多くもてるようにする。

イ よい行動が見られる生徒に対して他の生徒が肯定的に評価することにより、互いに認め合う意識や、望ましい生活や人間関係を築こうとする力を高める。

(2) 使用にあたって

<目標達成マップ>

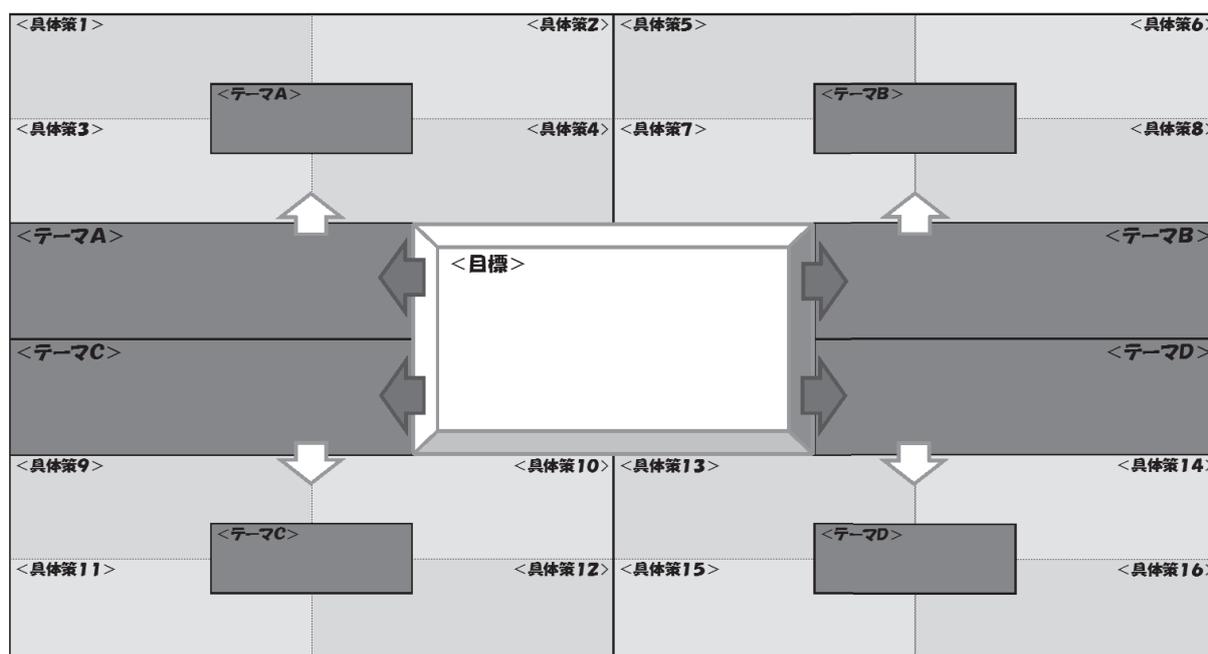
ア 最初に、学級で目標を決め、中央の枠に記入する。

イ 目標を達成させるための4項目のテーマを考え、左右の枠に記入する。

ウ 最後に、各テーマを達成するための具体策をそれぞれ四つ考え、記入する。

【目標達成マップの例】

○年○組 合唱コンクール「目標達成マップ」



<振り返りカード>

- ア 目標を達成するための具体策について、定期的に「自分」や「学級」について行動を振り返る。
- イ よい行動が見られる生徒のカードに、「いいね！シール」と題したシールを貼る。
- ウ 定期的に教師や学級委員等がカードの中から、よい行動が見られた生徒を朝の会や各種便り等で紹介する。

【振り返りカードの例】

○組合唱コンクール目標「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」
達成のための振り返りカード

印の種類：◎, ○, △, ×

氏名： _____

テーマ	具体策	○月○日(○)		月 日()		月 日()		月 日()		☆☆☆いいね！シール☆☆☆
		印	理由	印	理由	印	理由	印	理由	左の具体策がよくできていたら、 クラスメイトがシールを貼きましょう！
A ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 △△△△△△△	○	□□ だから							
	2 △△△△△△△									
	3 △△△△△△△									
	4 △△△△△△△									
B ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	5 △△△△△△△	◎	□□ だから							
	6 △△△△△△△									
	7 △△△△△△△									
	8 △△△△△△△									

2 実践的研究(2) 検証授業

(1) 題材 「合唱コンクールの目標を達成しよう」

(2) 題材設定の理由

主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする力を育てるためには、自分の考えを伝え合い、互いに認め合う活動が大切である。そうした活動を実現させるために、「一人一人が自分の考えをもち、伝え合うための工夫」、「話し合い活動を円滑に進めるための工夫」、「互いに認め合えるための工夫」、「振り返り活動の工夫」を通して検証を行うこととした。

この活動では、行事に向けた目標を達成するために、行うべき行動をテーマ・具体策に分けて決め、それらを実践して定期的にその成果を振り返ることとした。このことにより、目標を決める際に自らの考えを伝え合い円滑な話し合い活動が行われるとともに、成果を振り返ることで互いを認め合うことができるようになることとした。

本実践では「合唱コンクールの目標を達成しよう」という題材を設定した。

(3) 指導のねらい ※ア～エは、検証授業1～4のねらいと関連している

ア 互いに認め合ったり協力したりして行事を成功させようとする態度を育てるため、合意形成に基づき目標を決定する。

イ 生徒一人一人の多様な意見を互いに受け入れ認め合えるようにするため、多くの目標達成に向けた具体策を決定する。

ウ 互いに考えを認め合いながら今後の行動について合意形成を図ることができる力を育成するため、振り返りの中で自己評価や相互評価を充実させる。

エ これからの生活において、よりよい人間関係を築いていくことの大切さに気付くことができるようにするため、行事を通して他の生徒の考えやよさを認め合う活動を重視する。

(4) 評価規準

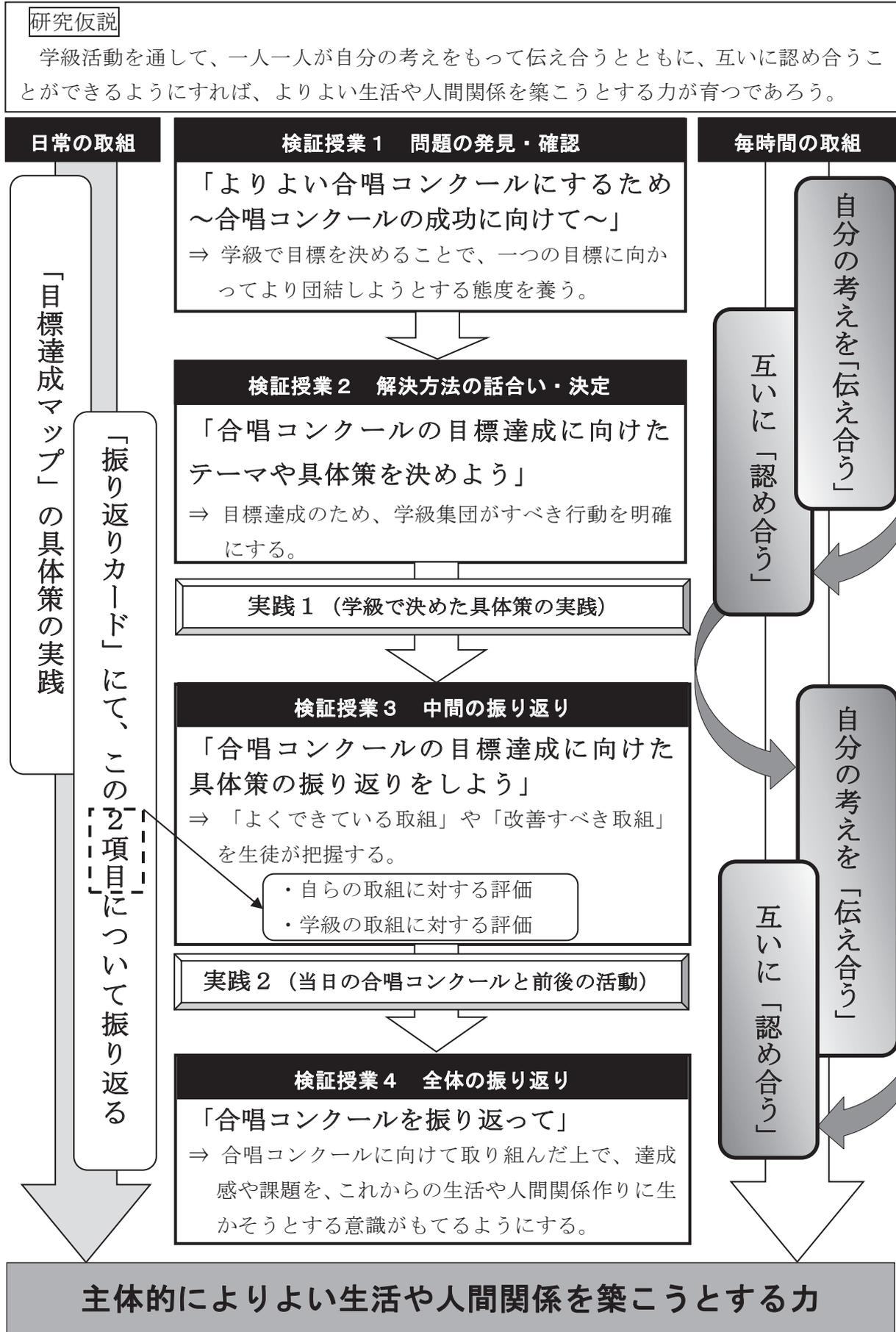
自己・集団活動・生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(5) 指導の過程

時期	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
9月 中旬	◇意識調査 ・合唱コンクールへの思いに関するアンケートに回答する。 ◇実行委員会議 ・集計後、次時の話し合い活動の柱の設定、流れの検討をする。	・生徒の率直な意見を知るため、あまり言葉掛けせず、アンケートに答えさせる。 ・明確に趣旨説明できるように、必要に応じて補足説明を行う。	
9月 下旬	◇【検証授業1】 ・「よりよい合唱コンクールにするため～合唱コンクールの成功に向けて～」	・実行委員を中心に進める。 ・教師は中立的な立場を意識して助言を行う。 ・学級で目標を決めることで、一つの目標に向かってより団結しようとする態度を養う。	【知識・理解】 ・積極的に話し合いに参加し、班員のそれぞれの考えをまとめた目標を作り上げようとしている。 [観察] [ワークシート]

9月 下旬	◇【検証授業2】 ・「合唱コンクールの目標達成に向けたテーマや具体策を決めよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫し、「目標→テーマ→具体策」の流れが見えやすくする。 ・話し合いやすいように机の位置をT字型にする。 ・目標達成のため、学級集団がすべき行動を明確にする。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の意見や思いを生かしながら、具体策を作ろうとしている。 ・その理由を分かりやすく伝えようとしている。 <p>[観察] [ワークシート]</p>
10月 月上旬	◇具体策の振り返り ・取り組む具体策について、個人や学級の成果や改善点を挙げる。 ◇「いいね!シール」の活用 ・具体策について、他の生徒のよい行動について評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・決めた具体策について、どれだけ実効できているかを、定期的に自己評価させる。 ・教室掲示している「振り返りカード」に「いいね!シール」を貼ることで、他の生徒を尊重する雰囲気を作り、貼られた生徒の自尊感情を高める。 	
10月 月中旬	◇【検証授業3】 ・「合唱コンクールの目標達成に向けた具体策の振り返りをしよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくできている取組」と「不十分な取組」を生徒に把握させる。 ・不十分であることの原因とともに、今後の改善策について考えさせる。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の向上に関わることに関心をもち、新たな課題を発見しようとしている。 <p>[観察] [ワークシート]</p>
11月 月上旬	◇合唱コンクール ・目標実現に向けて活動する。 ◇合唱コンクールの振り返り ◇本期間のMVPの決定 ◇「目標達成マップ」のそれぞれのテーマごとに反省をし、合唱コンクールの目標の達成度を自己評価する。 ◇【検証授業4】 「合唱コンクールを振り返って」	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組を思い出させ、生徒の活動意欲が高まるよう助言する。 ・今までの活動を振り返って成果や課題を書くように助言する。 ・陰のMVPも考えさせることで、目につきにくい場所で努力したことについても価値付ける。 ・達成度を決めるに当たって、成果が上がった行動や出来事は青の付箋、課題が見られたものは赤の付箋で内容を記述するよう指示する。 ・自分の考えを伝え合うことや、互いに認め合うことにより学級におけるよりよい生活や人間関係の構築につながることを伝える。 ・達成感や課題を、これからの生活に生かそうとする意識がもてるよう声掛けを行う。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の向上に関わることに関心をもち、成果や新たな課題を発見しようとしている。 <p>[観察] [ワークシート]</p>

図：指導の過程



(6) 【検証授業 1】

ア 本時の活動のテーマ

「よりよい合唱コンクールにするため ～合唱コンクールの成功に向けて～」

(内容項目：(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

イ 本時のねらい

少人数での話し合い活動や学級全体での意見交換を通して、互いに認め合ったり協力したりして行事を成功させようとする態度を育てる。

ウ 本時の展開 表中の「※1,2」は、「エ 資料等」の吹き出しに対応している。

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 5分	1 本時の活動のねらいを知る。	・合唱コンクール実行委員が中心となって進行できるように助言する。	
活動の展開 ① 20分	2 4人班で学級の目標を決定する。 3 ワークシートに班で決めた目標を記入する。	・司会者、記録者、発表者の役割を決めさせる。 ※1 ・班の話し合いの状況を見ながら、適切に助言する。 ・意見を発表しやすいように、事前にワークシートに自分の考えを書かせておく。 ・話し合い活動がしやすいように机の位置を工夫する。	【知識・理解】 ・積極的に話し合いに参加し、班員のそれぞれの考えをまとめた目標を作り上げようとしている。 〔観察〕 〔ワークシート〕
活動の展開 ② 20分	4 各班の発表者が、ホワイトボードを持って、前で発表する。ホワイトボードは発表後、黒板に貼る。 ※2 5 各班の目標を参考にして、学級の目標を作る。	・聞く、話す姿勢を意識させる。 【発表の方法】時間：90秒 1 班名と氏名 2 目標の発表 3 理由 ・合意形成の仕方について、司会の状況を見ながら、進行について、助言する。	【思考・判断・実践】 ・自分たちの班で考えた目標とその理由を分かりやすく伝えようとしている。 〔観察〕

活動のまとめ 5分	6 決定事項を確認する。	・ 多様な意見を基に学級の目標が決まったことを確認させる。	【関心・意欲・態度】 ・ 話し合い活動への自分の取り組みを振り返り、自分の課題を知り、それを改善していこうとしている。 [ワークシート]
	7 本時を振り返る。	・ 合意形成する上で、参考になった意見や新たな発見等について、発表させる。	
	8 教師の説話を聞く。	・ 合意形成を図るためには、互いに意見交換し、よさを認め合うことが大切であることを伝える。	

エ 資料等

～合唱コンクールについて～

1. 「合唱コンクール」について、あなたはどのような思いや願いがありますか。

2. 目標

①自分

②クラス

__組__番 氏名

～合唱コンクールのクラス目標～

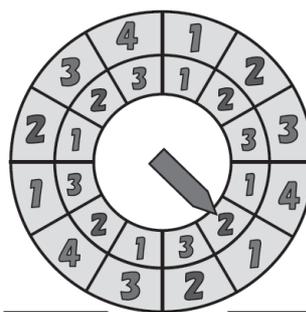
1. 班員はどのような思いをもっているかな。

2. 目標

理由

みんなが担当しよう

この時間の司会は？



12ページの※1
司会・記録・発表と役割を分担し、少人数で意見を交換する。

12ページの※2
合意形成を図るため、グループの考えを黒板に掲示し、伝え合う。



オ 検証授業を終えて

- ・ 目標の決定に関しては、事前に実行委員に決定方法を委ねた。時間がかかったが、実行委員は班の意見を参考にしながら目標をまとめていた。
- ・ 班の発表時に、参考になった意見等をワークシートに書き込むことにより、多様な意見を認め合いながら、学級集団を高める方法について合意を形成することができた。
- ・ 意見を発表した生徒に対し、自然に拍手が起こった。それぞれの意見を聞き合うことで、認め合う意識が育ってきた。

(7) 【検証授業 2】

ア 本時の活動のテーマ

「合唱コンクールの目標達成に向けたテーマや具体策を決めよう」

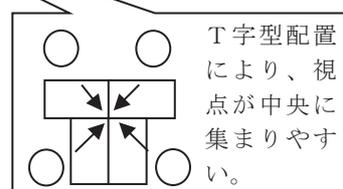
(内容項目：(1) ウ 学校における多様な集団の生活の向上)

イ 本時のねらい

多くの目標達成に向けた具体策を決めることで、生徒一人一人の多様な意見を互いに受け入れ、認め合おうとする態度を育てる。

ウ 本時の展開 表中の「※1,2」は、「エ 資料等」の吹き出しに対応している。

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 5分	1 目標達成のために、テーマや具体策を決めることを伝える。	・教師自身が作成した目標達成シートを見せ、目標達成のためには「テーマ」をもち「具体策」を実行することが大切であると伝える。	
活動の展開 ① 20分	2 4人班で目標達成のためのテーマと具体策について話し合う。 3 他の班の意見を参考にしながら話し合いを続ける。 4 決定事項を紙に記入し黒板に掲示する。	・ワークシートを用意し、「目標→テーマ→具体策」の流れが見えやすいようにする。※1 ・話し合い活動がしやすいように机の配置を工夫する。 ・他の班員が自分の班に参考意見を聞きに来た際に説明ができるよう、必ず班員1名は班に残らせる。	【思考・判断・実践】 ・一人一人の意見や思いを生かし、それらを含めた具体策を作ろうとしている。 [ワークシート]
活動の展開 ② 20分	5 実行委員を中心に、各班の意見を聞きながらテーマと具体策をまとめる。※2	・実行委員に予想される意見や意見のまとめ方について事前に指導しておく。 ・話し合いの状況を見て、意見のまとめ方について助言する。	【思考・判断・実践】 ・自分たちの班で考えた具体策とその理由を分かりやすく伝えようとしている。 [観察]



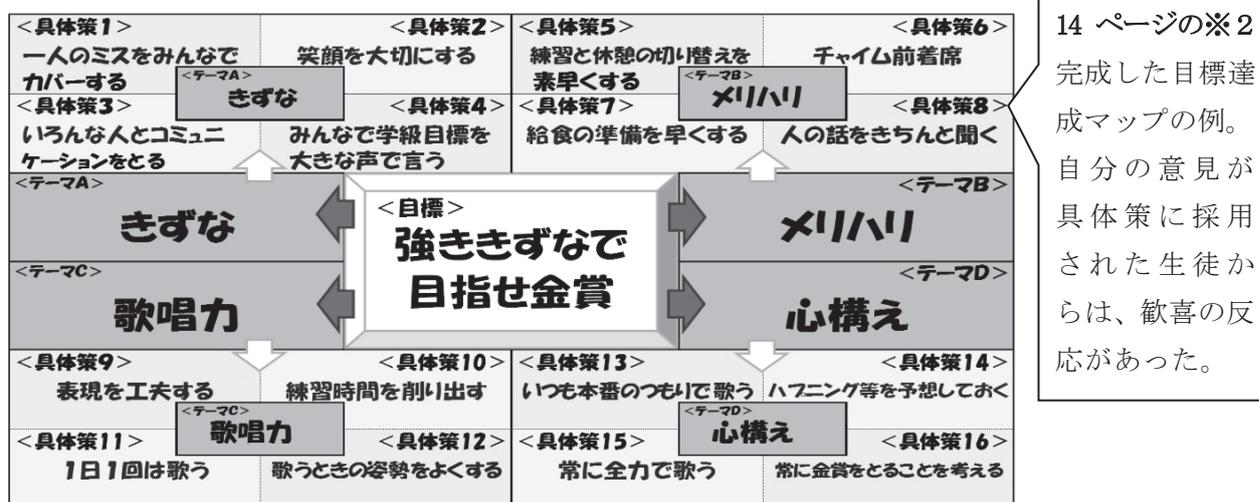
活動のまとめ5分	6 決定事項を確認する。	・学級集団の目標を達成するためには、一人一人の考えと行動が必要なことを再認識させる。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動への取組を振り返り、自分・集団の課題を知り、それを改善しようとしている。 〔ワークシート〕
	7 本時の振り返りをする。		
	8 教師の話を聞く。	・学級で決めた取組の実践が、合唱コンクール後のよりよい学級づくりにもつながることを伝える。	

エ 資料等

○組の合唱コンクールの「目標」、達成のための「テーマ」「具体策」を決めよう！



○年○組 合唱コンクール「目標達成マップ」



オ 検証授業を終えて

- ・ 時間の制約がある中で「目標→テーマ→具体策」と多くのことを決めたため、具体的な場面を想定した意見を引き出すことが難しかった。
- ・ 自分の意見が具体策に採用された生徒に対し、教師が称賛の思いを伝えると、生徒の歓喜の反応があり、自分の意見が採用されることによる自尊感情の高まりを感じることができた。

(8) 【検証授業 3】

ア 本時の活動のテーマ

「合唱コンクールの目標達成に向けた具体策の振り返りをしよう」

(内容項目：(1) ウ 学校における多様な集団の生活の向上)

イ 本時のねらい

行事に向けた取組を振り返りの中で、自己評価や相互評価を充実させることで、互いに考えを認め合いながら、今後の行動について合意形成を図ることができる力を育てる。

ウ 本時の展開 表中の「※1」は、「エ 資料等」の吹き出しに対応している。

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 5分	1 本時の活動を理解する。	・活動内容が多いため、教師が進行し、学級の合意形成を図る場面は、実行委員に進行を委ねる。	
活動の展開 ① 20分	2 具体策を振り返り、改善点すべき理由を付箋に書く。 3 班の中で意見を交換する。 4 班でまとめた付箋を黒板に貼る。	・自己評価した振り返りカードを基に付箋に記入する。※1 ・できていないことの原因を考えさせる。 ・発言が苦手な生徒への配慮として、自分の考えを記入した付箋を机上のシートに貼らせる。 ・班内で類似した意見は、まとめさせてから掲示させる。	【思考・判断・実践】 ・具体的な改善策を考え、理由を示して意見を述べている。 〔観察〕
活動の展開 ② 20分	5 黒板に貼られた付箋を基に、成果と改善点を確認する。 6 学級の改善策をいくつか考える。	・進行を実行委員に任せる。 ・多様な意見が引き出されるよう、適切に助言する。 ・教師は学級内に支持的な風土を醸成するため、互いの意見を尊重しながら、学級の合意形成が図られるよう適切に助言する。	【思考・判断・実践】 ・集団の向上に関わることに興味をもち、新たな課題を発見しようとしている。 〔ワークシート〕 【関心・意欲・態度】 ・他の生徒の意見を尊重しながら、よりよい生活づくりなどについて考え、判断している。 〔観察〕

活動のまとめ 5分	7 決定事項を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの流れを方向付けた発言や実行委員の活動などを評価するとともに、実践へ向けて、活動意欲を高めることができるよう助言する。 ・ 事後指導として、実行委員に「改善策リスト」を作成させ、教室に掲示する。
	8 振り返りシートを記入する。	

エ 資料等

16 ページの※1
円滑に付箋を作成するため、振り返りカードを活用する。

【振り返りシートの例】

話し合い活動 振り返りシート

○組 番 氏名: _____

<○組が特によくてきている具体策>

具体策	理由

○組合唱コンクール目標「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」
達成のための振り返りカード

印の種類: ◎, ○, △, X

氏名: _____

グループ	具体策	印	理由	印	理由	印	理由	印	理由	☆☆☆☆☆☆☆☆ / シール☆☆☆☆
A	1 △△△△△△	○	□□だから							
	2 △△△△△△									
	3 △△△△△△									
	4 △△△△△△									
B	5 △△△△△△	◎	□□だから							
	6 △△△△△△									
	7 △△△△△△									
	8 △△△△△△									
	9 △△△△△△									

<今日決まった○組の改善策>

具体策	理由	改善策
		→
		→
		→
		→

○ この話し合い活動を踏まえて、合唱コンクールに向けてあなたはどんなことを頑張りますか？
具体的な場面を想像しながら考えたことを書いてください。

○ 今回の話し合い活動で、「いいな」と感じた他の生徒の意見を教えてください。
例) ○○さんの△△△という発言が、□□□と感じた。

オ 検証授業を終えて

- ・ 付箋の活用は、多様な意見を引き出すとともに、類似した意見をまとめる活動にも効果的であった。
- ・ 活動シートに書く量が多すぎたため、話し合いの時間が少なくなってしまった。
- ・ 合意形成を図る場面では、生徒の主體的な話し合い活動とするため、話し合いの柱や手順、意見のまとめ方等について、事前に司会へのきめ細やかな指導が必要であった。
- ・ 学級の話し合いで決まった「人の話をきちんと聞く」という改善策について、改善への意識をもって学校生活を送ることができるようになった。

(9) 【検証授業4】

ア 本時の活動のテーマ

「合唱コンクールを振り返って」

(内容項目：(1) ウ 学校における多様な集団の生活の向上)

イ 本時のねらい

他の生徒の考えやよさを認め合う活動を重視した行事への取組を振り返ることで、これからの生活において、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。

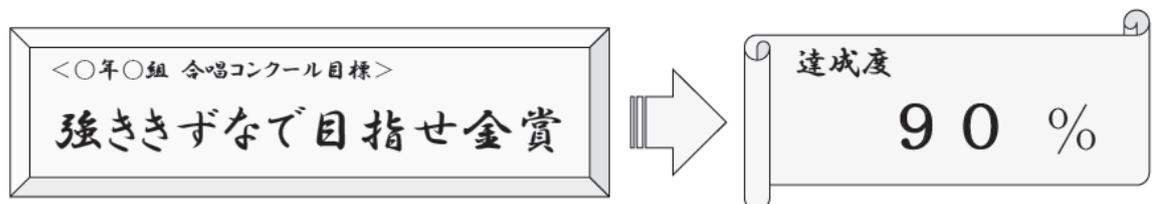
ウ 本時の展開 表中の「※1,2」は、「④ 資料等」の吹き出しに対応している。

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 5分	1 話合いのテーマを確認する。 ・p9～11「指導の過程」に記載の11月上旬の指導内容も併せて確認する。	・教師が司会を行う。 ・振り返りカードや事前に作成した青と赤の付箋を基に目標達成度シートを完成させることを伝える。	
展開① 20分	2 机をグループの形にし、テーマごとに成果や課題をまとめ、グループでワークシートを完成する。※1	・グループで出た新たな意見を書き込むため、予備の付箋を配布する。 ・テーマごとの成果や課題を出し合いまとめる作業を優先させる。達成度の割合は最後に決めるよう指示する。	【思考・判断・実践】 ・具体的な出来事など、理由を示して意見を述べている。 〔観察〕 〔ワークシート〕
展開② 15分	3 他のグループが作成したシートを順番に回覧する。※2 共感した意見の付箋を、学級全体のシートに貼る。	・1グループ、1分で回覧する。自分たちのグループからは出なかった意見を多く見付けるように助言する。	【思考・判断・実践】 ・他の生徒の意見を参考にしながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断している。 〔観察〕
活動のまとめ 10分	4 合唱コンクールの取組全体を振り返る。	・合唱コンクールの取組を通じての学級や個人の変容について具体的な場面にふれながら、生徒の取組を評価する。 ・よりよい学級や人間関係を築くためには自分の考えを伝え合うことや互いを認め合うことが大切であることを伝える。	【関心・意欲・態度】 ・集団の向上に関わることに関心をもち、成果や新たな課題を発見しようとしている。 〔観察〕

エ 資料等

【学級活動を振り返るためのワークシートの例】

取組後の成果は青色の付箋、今後の課題は赤色の付箋に書き込ませる。



<テーマA>	<テーマB>	<テーマC>	<テーマD>
<p style="text-align: center;">きずな</p> <p>みんなが笑顔でいる時間が増えた。</p> <p>この行事を通して、学級内のきずなを深めることができた。次の行事にも、このきずなを生かしたい。</p> <p>合唱コンクール当日の「円陣」で学級の団結力を感じた。みんなで努力してきた成果を発揮したいと思った。</p> <p>合唱コンクール後は、帰りの会で学級目標を言う声が小さくなっている。</p>	<p style="text-align: center;">メリハリ</p> <p>いろんな人が声を掛け合い、チャイム前着席の習慣が身に付いてきた。</p> <p>みんなが実行委員や指揮者の指示をよく聞いていた。この経験を今後の授業にも生かしていきたい。</p> <p>授業中に集中力が切れてしまうことがある。</p> <p>給食の準備が遅くなってきている。当番活動に責任をもって取り組む必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">歌唱力</p> <p>歌の強弱など、練習の成果を発揮することができた。</p> <p>少しでも多くの練習時間を削り出すため、素早く机を移動していた。</p> <p>今年の経験を生かし、来年の合唱コンクールでは、今以上の表現力を発揮したい。そのために、音楽の授業を大切にしたいと思った。</p> <p>パートごとに音程がそろっていないことがあった。</p>	<p style="text-align: center;">心構え</p> <p>常に金賞をとろうと前向きに考えていた。学習や部活動にもこの気持ちを生かそうと思った。</p> <p>本番で伴奏が止まってしまうなど、いろいろな場面を考えながら練習することができた。</p> <p>みんなでアドバイスし合ったり、励まし合ったりしていた。</p> <p>練習中に私語があり、本番のような雰囲気を作れなかった。</p>

18 ページの※1
活動に応じて、「個人用」「グループ用」「クラス掲示用」の同じシートを用意すると作業が行いやすい。



18 ページの※2
他班が作成した振り返りシートを回覧することで、発表形式では伝えられない細かな内容も読み取ることができる。生徒は他の班の意見で共感した内容をよくメモしていた。

オ 検証授業を終えて

- ・ 完成したシートを教室に掲示したことで、取組への達成感をもつとともに課題をこれからの生活に生かそうとする意識を高めることができた。また、学級内でそうした意識の高まりを示唆する発言も多くなった。
- ・ 回覧する場面での認め合いの工夫として、共感できた付箋の近くに正の字で評価するなどすれば、自席に戻ったときに自分の意見への評価が確認できたと考える。
- ・ これまでの行動の振り返りに加え、今後の学校生活にどのように生かしていくのかを考える活動を行わせればよかった。
- ・ 合唱コンクールに限らず、その他の行事や日常生活で目標を掲げる際も、「目標→テーマ→具体策→実行→行動の振り返り」という取組を行うことで、より多くの生徒の主体性やよりよい生活や人間関係を築こうとする力を育むことができるのではないかと考える。

VI 分析と成果の検証

1 特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点からの分析

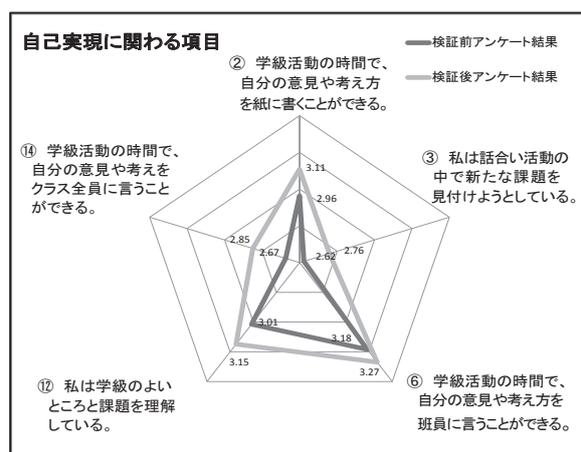
本研究で作成した「学級活動に関するアンケート」（6 ページ参照）の質問項目を、「審議のまとめ」の中で、特別活動において育成すべき資質・能力として示された「自己実現」「人間関係形成」「社会参画」の三つの視点に沿って分析した。分析は、事前調査である 9 月と事後調査の 11 月のアンケート結果から、回答番号の 1～4 を点数とし、それぞれの平均値を算出し、生徒の意識の変容を比較することにより行った。

(1) 自己実現に対する意識の変化

「自己実現」に関する質問項目は右に示すとおりである。その結果、対象とする生徒 593 名の「自己実現」に対する意識が高まったと捉えることができる。特に、「⑭学級活動の時間で、自分の意見や考えをクラス全員に言うことができる。」という項目に関しては、9 月当初の生徒の意見の中には、「意見を発表することが恥ずかしいから言えない。」「みんなから否定されるのが怖い。」といった意見があった。しかし、

検証後の 11 月には、多くの生徒が学級活動の話合い活動において、意見を発表することの有用性を感じ、「自分の意見を伝えないと何も分からないまま物事が決まってしまうので話さないといけない。」「主張をすることで、全体の意見が変わることもあるので話合いは大切だ。」（アンケート生徒記述文より抜粋）などの意見が挙げられた。このことは、生徒たちが自分たちの課題を把握したり、自分たちの集団をよりよいものにしていくには、話合いが必要であることに気付いた結果であると考えられる。

グラフ 1 自己実現に対する意識の変化

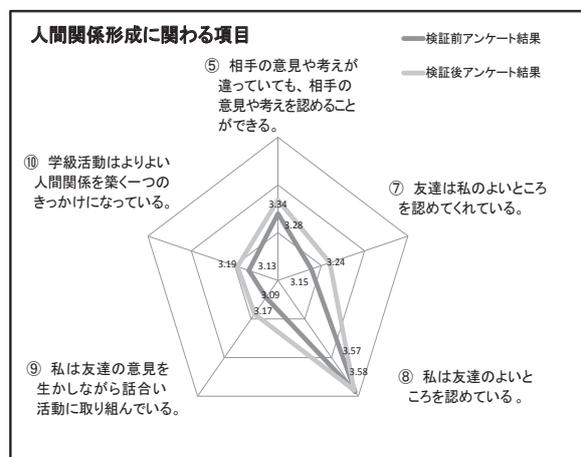


(2) 人間関係形成の意識の変化

「人間関係形成」に関する質問項目は右に示すとおりである。その結果、五つの質問項目の中で、四つの平均値が上昇した。よりよい生活や人間関係を築いていく上で自分の考えを伝え合う話合い活動や、互いに認め合いながら実践や振り返りの活動を行うことが有効な手だてであったと考える。しかし、今回のアンケートでは、「⑧私は友達の良いところを認めている。」という項目に関しては、僅かではあるが数値の減少が見られた。このことについては、

生徒の内面を把握するための適切な評価の在り方を検証しなければならない。また、本研究

グラフ 2 人間関係形成の意識の変化



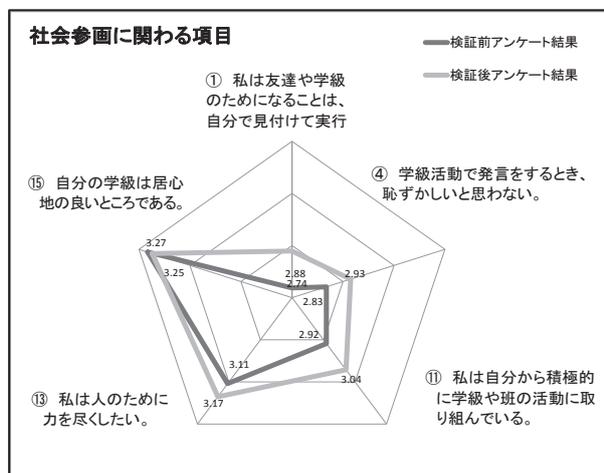
における取組の実践は僅か3か月間であり、生徒の内面を変容が客観的に判断できるようにするためには、毎時間の学級活動において、互いに認め合う活動の場面を意図的に設定する必要があると考える。

(3) 社会参画への意識の変化

「社会参画」に関する質問項目は右に示すとおりである。その結果、「①私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。」と「④学級活動で発言するとき恥ずかしいと思わない。」という項目に平均値の上昇が見られたことから、学級や友達のために主体的に行動することができるようになった生徒が増えたのではないかと考えられる。また、他の生徒に意見を伝える大切さを理解している反面、中学生段階においては、人前で自分の意見を主張する恥ずかしさや不安を感じている生徒も多く存在していることを推測させる結果である。

ほとんどの項目において、数値の上昇が見られることは、学級活動での話合いが、生徒の心情に変化をもたらし、人前で意見を述べることへの自信を通して社会参画への意識も向上していると考えられる。

グラフ3 社会参画への意識の変化



2 学級活動におけるアンケートの自由記述欄や取組後の生徒の作文等からの分析

以下にアンケートの自由記述欄や取組を終えての生徒の作文等から成果を分析する。

(1) 学級活動に関するアンケートからの抜粋

本研究では、「学級活動を通して、一人一人が自分の考えをもって伝え合うとともに、互いに認め合うことができるようにすれば、よりよい生活や人間関係を築こうとする力が育つであろう。」との研究仮説に基づき、検証授業を行ってきた。学級活動に関するアンケートでは、①自分の考えを伝えること、②他の生徒を認めることに関連した項目に自由記述欄を設けた。

- ① 「学級活動の時間で、自分の意見や考えをクラス全員に言うことができる。」
- ② 「私は友達のよいところを認めている。」

上記の項目について肯定的評価（3、4）を選んだ生徒の割合とその変化

①	事前アンケート	55%	事後アンケート	<u>66%</u>	→	11%上昇
②	事前アンケート	96%	事後アンケート	<u>96%</u>	→	変化なし

上記の項目について否定的評価（1、2）を選んだ生徒の割合は

①	事前アンケート	45%	事後アンケート	<u>34%</u>	→	11%減少
②	事前アンケート	4%	事後アンケート	<u>4%</u>	→	変化なし

生徒の記述の一部を以下に掲載する。

①「学級活動の時間で、自分の意見や考えをクラス全員に言うことができる。」

- ・ 自分の意見を発表することで、学級を変えることができるかもしれない。
- ・ 人それぞれが意見を言えば、いろいろな課題が見えてくる。
- ・ 自分たちの学級をもっとよくしたいと思っている。
- ・ 自分の意見を言わないと、学級全体で話し合っている感じがしない。
- ・ 自分の意見を言うことで、互いの意見を知ることができる。
- ・ 自分の意見を言うことで、クラスの人に別の考えを知ってもらえて、よりよい活動につながる。

②「私は友達のよいところを認めている。」

- ・ 相手も自分のことを認めてくれる。
- ・ 友達は、自分にはないものを持っている。
- ・ 友達を素直に「すごい」と思える。
- ・ 人には必ずよいところがあると信じている。
- ・ 友達のよいところを見付ければ、自分にもプラスになる。

上記は、肯定的な意見の例であるが、一部には「恥ずかしいから意見を言えない。」「自分の発言が正しいか不安である。」「自分のことで精一杯だ。」などの自分の考えを伝えることに否定的な記述も見られた。また、元々評価の高かった生徒は、記述内容が学級全体を見据えたものに変化した。特に、互いの意見を伝え合うことを通して、自己や学級集団が抱える課題を解決できることに充実感をもっていることが分かる。

(2) 合唱コンクールを終えた生徒の作文からの抜粋

以下に示すのは、合唱コンクールに係る全ての取組を終えた生徒の作文等の記述の一部である。

目標決めの時は、「優勝」のみにするか、優勝を含めた文章にするか意見が分かれた。それぞれのよさを話しながら議論を重ね、最終的には「優勝」の二文字に決まった。ここでは互いの意見の違いを「認める心」が働いたと思う。

ここでは教師の言葉掛けが大切となる。教師の説話で、優勝を目指すことに変わりはないが、議論を重ね、多様な意見を認め合い、合意形成することの大切さについて認識させることができた。

優勝という目標を達成するにはどうしたらよいか、その具体策をクラスのみんなで考えることによって、優勝したいという意識が一気に高まった。

話し合い活動の前に、自分の考えをワークシートや付箋に書かせたことで、これまで以上に活発な意見交換ができた。また、班でまとめた考えを実行委員が中心にまとめていく活動を通じて、学級の目標に向かって互いに協力することや認め合うことの大切さに気付くことができた。

「目標達成マップ」を作成するだけでなく、「振り返りカード」を活用することで、「今日はこんなことができた。」「これはできなかった。」など、その反省を生かし一人一人が自分と向き合うことができた。

「振り返りカード」の活用は、作文や感想、生徒との会話の中で高い評価を得ていた。話し合い活動でも「振り返りカード」を基に、自己を振り返り、学級の課題を発見していた。また、他の生徒からの評価について、「振り返りカード」に貼られる「いいね！シール」で確認することができるため、学級内の互いを認め合う支持的な風土を醸成することができた。

皆で目標を決め、具体策を考えたことで、練習での声掛けが増えた。また、話し合っ改善していくことで仲間のよさを認識することができた。これからもっとよいクラスにしていきたい。

学級での話し合い活動が、互いの考えを知るきっかけとなり、仲間を認めることで集団のよさを伸ばしていく様子が見られるようになった。練習中や学級活動の中では、「よいことを言うね。」「そんな意見もあるんだね。」など、互いを認め合う気持ちを伝える発言が多く見られた。

Ⅶ 研究の成果

1 小集団による話し合い活動の有用性

小集団での話し合いの場を設定することで、学級全体の場では恥ずかしがって意見を発表できなかった生徒も、必然的に意見を述べる機会を増やすことができた。また、机の配置を工夫するなどして、互いの顔を見ながら考えを伝え合うとともに、認め合う活動を意図的に行ったことで相互理解が深まり、話し合い活動の中で自分の考えを他の生徒に伝えようとする姿や相手と意見の違いがあっても、折り合いを付けて合意を形成しようとする姿が見られるようになった。

2 付箋やワークシート等を用いた話し合い活動の有用性

付箋やワークシート等を活用し、自分の考えや意見を事前に記入しておくことで、発言することが苦手な生徒も、班単位で話し合い活動をする際に、前向きに参加している様子が見られるようになった。また、他の生徒の振り返りシートに「いいね！シール」を貼ることで、相手に自分の考えや意見を伝えることが苦手であっても、相手の考えや活動を認めるという気持ちを示すことができ、互いを認め合う活動につなげることができた。

3 「目標達成のための振り返りシート」を用いた話し合い活動の有用性

「目標達成のための振り返りシート」を用いたことで、目標達成のための自己や学級の課題を明確にすることができた。「課題の改善」や「目標の達成」のために、学級全体で何をすべきか話し合う際に「目標達成のための振り返りカード」を見ながら、生徒一人一人が自分の考えをもった上で話し合いに参加することによって、互いの意見を聞き合いながら、自分の考えを深めるなど、活発に意見を交換する様子が見られるようになった。

VIII 今後の課題

1 話し合いの必然性をもたせる議題の選定

本研究では、学校行事である合唱コンクールへの取組を題材として継続した話し合い活動を行ってきた。今後は、生徒の日常生活の課題について、生徒自らに話し合いの必然性をもたせる議題の選定方法等を検証する必要がある。

2 リーダーとなる生徒への事前指導

生徒主体の話し合い活動が展開されるよう、休み時間や放課後等の時間を活用し、学級委員会等を中心に学級活動の計画を立てる必要がある。また、司会や記録等の役割分担を決め、活動の開始に当たり、議題の提案理由や活動テーマの設定理由、話し合いの手順等の説明を通じて、円滑な話し合い活動や合意形成が行われるよう、事前指導を充実させることが求められる。

3 教育活動全般を通じた話し合い活動の充実

教育課程全体に占める学級活動の割合は限られており、全ての生徒が自分の考えを伝え合うことは困難である。そのため、各教科の中で話し合い活動を行ったり、朝の会や帰りの会等を活用し、1分間スピーチを実施したりするなど、教育活動全般を通じて話し合い活動を充実させるための方策が必要である。

4 小学校段階での既習事項を生かした話し合い活動の充実

小学校学習指導要領解説特別活動編には、学級活動の活動形態として「話し合い活動」「係活動」「集会活動」が示されており、小学校でも、中学校と同じように話し合い活動が学級活動の中心的な活動になっている。このため、中学校では、小学校の学級活動や児童会活動で身に付けた話し合い活動に関する議題の選択、話し合いの方法、役割分担などの経験や能力を生かすことができるよう、生徒の活動経験を十分に把握して、実情に即した指導の工夫をすることが大切である。

5 小集団による話し合い活動の工夫

本研究の成果の中で、小集団による話し合い活動の有用性を挙げているが、更に活発な話し合い活動をするためには、小集団の中で、司会や記録といった役割を明確にすることが重要である。役割を明確にすることでより円滑かつ内容の濃い話し合いが行われるようになるとともに、一人一人の生徒の話し合いへの参加意識を向上させることにもつながると考える。また、話し合い活動ごとにメンバーを入れ替える等、話し合い活動をするためのグループ編成の工夫も必要である。

平成28年度 教育研究員名簿

中学校・特別活動部会

学 校 名	職 名	氏 名
品 川 区 立 東 海 中 学 校	主任教諭	◎ 俵 宗次郎
目 黒 区 立 大 鳥 中 学 校	主任教諭	浅野 雄太
足 立 区 立 第 十 四 中 学 校	教 諭	酒井 寛子
江 戸 川 区 立 松 江 第 一 中 学 校	主任教諭	加藤 拓人
日 野 市 立 日 野 第 一 中 学 校	教 諭	土屋 洋二
武蔵村山市立大南学園第四中学校	教 諭	清水 雄一

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 稲葉 大祐

平成28年度

教育研究員研究報告書
中学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス